02 **商品マスタ管理システムの追加機能**

片桐です、

私の方から山田ギフト様の「商品マスタ管理システムの追加機能」について説明いたします。

まず初めに、簡単ではございますが、

システムへの機能追加の経緯と追加した機能について説明いたします。

*スライドを次ページへ*

要求仕様書を基にした提案書を作成し、お客様にご提出いたしました。

提案書において、私たちは要求仕様書の内容を綿密に分析し、お客様との意見交換や提案書のレビューを行い、最終的な機能仕様を確定させました。

それらに基づき、新たに追加した機能は、

キーワード照会機能・重複商品の照会機能の以上2つとなっています。

以上が「システムへの機能追加の経緯と追加した機能」のご説明でした。

*スライドを次ページへ*

それでは、実際にシステムを動かして、機能紹介のほうに入らせていただきます。

「キーワード照会機能」の実装を担当した私、片桐の説明の後、

「重複商品の照会機能」については、佐藤の方から説明いたします。

Chrome上でシステムを動かす

まず、こちらに新たに実装した、

キーワード入力テキストボックスに「年」を入力し、

こちらの照会ボタンを押しますと、

入力したキーワードが「商品分類・商品名・商品説明」の中に含まれていれば、そのレコードを表示します。

何も入力せず、照会ボタンを押した場合は

既存の機能である商品ID照会の、「空白である場合はすべての商品を表示する」という機能に従い、キーワード照会も同様に「空白である場合はすべての商品を表示する」という仕様にしました。

また、

入力したキーワードに一致するものが存在しない場合は、

エラーを表示し、検索対象となっている列名を知らせるようにしました。

以上が、キーワード照会機能についての機能紹介となります。

次に、佐藤の方から重複商品の照会機能の説明をさせていただきます。

04**苦労したこと・工夫点・アピールポイントを話す**

これら3つに共通していることは、すべてソースコードに関連があることです。

私自身プログラムを記述することが好きですし、

アピールポイントの「バグを素早く取り除くことができた」というのは、

日々、プログラムを書く為の、勉強をしていたおかげだと感じているのですが、それが裏目に出てしまい、「苦労したこと」に繋がっています。

早い段階で８割ほど、私の担当している部分が完了してしまったため、

気持ちが緩んでしまい、綿密な設計を練らずに開発を始めてしまいました。

そのため、チーム間で手戻りが発生してしまいました。

初めで躓くとそのあとの工程、すべてで躓くという事を身をもって学ぶことができました。

この教訓を生かし、

現場に配属された際は、ソースコード・プログラムのことばかりを考えるのではなく、

計画や設計などの上流工程のことも頭に入れながら、業務に励んでいきます。

以上、Eチームの苦労したこと・工夫点・アピールポイントでした。

*スライドを次ページへ*

次に抜粋したドキュメントについて説明させていただきます。

Eチームの抜粋ドキュメントは、新たに追加した機能について、

ドキュメントをもちい説明いたします。

私が担当したキーワード照会機能はソースコードを用いて、

佐藤が担当した重複商品の照会機能ではシーケンス図を用いて、説明いたします。

細かいプログラムの説明はせず、あくまでもどういった「　修正・追加を加えたか　」という

概要に焦点をあてて説明していきます。

*スライドを次ページへ*

**キーワード照会機能 プログラム修正箇所**

まず初めに、私が担当したキーワード照会機能の追加に当たり、修正したファイルは3つです。

上から順にProductServlet、ReferLogic、FindProductDAOとありますがそれぞれの役割を説明します。

今回のキーワード照会の場合、

1番で照会ボタンが押されたことを判定し、

2番で照会ボタンのキーワード照会機能であると判断し、

3番にそれを知らせ、SQLの作成実行を行うという流れです。

時間の制約がありますので、

1番のProductServlet.javaにどういったコードを追加したかのみを、説明いたします。

*スライドを次ページへ*

ProductServletはif分によりどのボタンが押されたかを判定しています。

この図と同じような感じでソースコード上も記述されています。

上から順に、ログイン・削除・ID照会ボタンが押されたのか判定をするという、流れになっています。

そして、

「ID照会ボタンの分岐」のしたに「キーワード照会ボタンの分岐」を追加しました。

*スライドを次ページへ*

実際のソースコードはこのようになっており、繰り返しにはなりますが、

「ID照会ボタンの分岐」のしたに「キーワード照会ボタンの分岐」を追加し、

変更箇所が分かるよう、コメントで破線と名前/日付を加えました。

これにより、いつだれがどんな変更を加えたのかを、引き継いだ方がソースコードの分析を円滑に進められるよう工夫しました。

以上、キーワード照会機能 プログラム修正箇所になります。

次に、佐藤の方から「重複商品の照会機能」について説明させていただきます。